

「痛くない小児歯科治療」

前長崎大学歯学部小児歯科学講座教授

後 藤 讓 治 (ごとう じょうじ)



●略 歴

- 1963年 東京歯科大学卒業
- 1967年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
- 1967年 東京歯科大学助手（小児歯科学講座）
- 1967年 東京歯科大学講師
- 1970年 Western Ontario 大学歯学部客員助教授
- 1972年 東京歯科大学助教授（小児歯科学講座）
- 1983年 長崎大学教授（歯学部小児歯科学講座）
- 2002年 長崎大学を定年退官、現在長崎大学名誉教授

痛くない小児歯科治療は、患者にとっても、その保護者にとっても、また小児歯科医、パラデンタルにとっても、まことに望ましいことである。私はこれまで、痛くない小児歯科治療を研究テーマのひとつとして取り組んできた。

痛くない小児歯科治療のためには応用可能な種々の方法があり、それらを積み重ね複合することによって、これは達成可能となる。臨床応用可能な方法として、1) 歯科的対応法、2) 歯の切削法、3) 麻酔法、4) 東洋医学的方法、などがある。それぞれについて説明し、そのうち特に歯の切削法とその歯髄反応に重点をおいて述べる。

1) 歯科的対応法

患児に恐怖心を与えない歯科的対応が大切で、そのため細心の注意をはらう必要がある。日本小児歯科学会で以前特別講演をされた、愛育病院名誉院長の故内藤寿七郎先生によると(1)優しい目でじっと患児の目を見つめる、(2)すると目と目があう、(3)愛情をこめて語りかける、(4)そしてお友達になれる、と言うのである。先人の大家の言葉のなかに真理が含まれているように感じ、数十年後の今日でも忘れることができない。

2) 歯の切削法

歯科治療は痛くて怖い、の代表にあげられるものに歯の切削がある。浸潤麻酔を施してから切削を行えば疼痛は防げるものの、その麻酔の注射も痛くて怖い対象となる。現在歯科治療に用いられている歯の切削法の主流は、エアータービン、電気エンジン等の回転切削装置である。回転切削装置による歯の切削においては、バーが歯に接触するため、加圧、振動、騒音、発熱、疼痛、切削臭等を伴う。臨床に応用可能な回転切削法以外の歯の切削法として、(1)噴射切削法（エアアブレーション）、(2)レーザー切削法、(3)ハンドインストルメントによる切削およびケモメカニカルな切削法（Carisolve）等がある。そのうち、主に噴射切削法による歯の切削およびその歯髄反応等についてその詳細を述べる。

3) 麻酔法

小児歯科臨床においては、通常浸潤麻酔が多用されているが、この他、伝達麻酔、笑気アナルゲジア、全身麻酔等も用いられる。局所麻酔の注射も歯科治療は痛くて怖い理由のひとつにあげられる。そこで針の無い無針注射器の臨床応用を試みたところ、症例を選べば有効に用いることができた。他方、電気歯科麻酔装置は、臨床で効果的に用いることは中々困難であった。

4) 東洋医学的方法

針麻酔、指圧などの東洋医学的手法は催眠術等と共に、歯科的対応法の心理誘導にも、また麻酔法にも関連する。これらのうち、指圧法は術式も左程熟練を要さず、スキンシップにもなり、とくに為害作用もないので、もっと小児歯科臨床に応用されても良い手法と思われる。

患者からも歯科医からも望まれる、痛くない小児歯科治療は、ひとつの手法のみでなく、種々の方法を有効に組合わせた複合的方法によって達成することが可能である。